

# **とちぎ将来構想(仮称)**

## **【第一次素案の概要】**

平成14年7月1日

**栃 木 県**

# とちぎ将来構想(仮称)第一次素案の概要

---

## 策定に当たっての考え方

---

### 1 第一次素案の趣旨

少子高齢化、環境問題、国際化やIT化、地方分権の進展など大きな転換期において、すばらしい“とちぎ”を将来の世代に引き継いでいくためには、社会の動きを見極め、長期的な視点を持って戦略的な取組を展開していくことが必要である。

「とちぎ将来構想(仮称)」は、中長期的視点から展望した県政の課題と、それに対する計画的・戦略的な取組方向を明らかにしようとするものである。

この「第一次素案」は、構想の総論的な役割を担う第1部「とちぎの将来展望」と、第2部「県政の取組方向」の概要までを記述したもので、この素案を示すことにより、県民の皆さんから、これからの“とちぎ”づくりへの意見や提言などをいただきながら構想を策定していこうとするものである。

なお、この後、12月には第二次素案を公表し、年度内に構想を決定する予定である。

### 2 想定する期間

#### (1) 将来を展望する期間

我が国の人口減少や地球環境問題などの影響が本格的に顕在化・深刻化すると考えられる21世紀中葉までを展望する。

#### (2) 取組方向を想定する期間

具体的な政策の検討が可能な期間として、今後10年～15年後程度を想定し、計画的・戦略的な取組の方向を検討する。

### 3 策定に当たって基本としていること

#### (1) “とちぎ”づくりの理念を示す構想

「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」という将来像を目指し、「分度推譲」を基本理念として、一人ひとりが自立し、個性や能力を十分に発揮しながら計画的に行動することによって豊かさやゆとりを産み出し、互いに譲り合い支え合うことによって、それを共有していける社会を目指す。

#### (2) 県民の皆さんとともに目指す将来像

県が自ら行うものだけでなく、県民や企業、市町村などに期待することなどをも含めて検討し、課題によっては国の制度に対する提言なども積極的に盛り込んでいくなど、「とちぎから創る21世紀の日本」という気概を持ちながら、将来の世代に託せる栃木県づくりを目標に策定する。

#### (3) 長期展望を見据えた戦略的な構想

社会情勢やニーズの変化や取組方向の見直しが予想される事項などを中心に、戦略的な取組を検討し、県政を網羅するものとはしない。

想定期間は10年～15年後を基本とするが、さらに長期的な視点から取り組む課題についても記載する。また、将来像の実現や課題への対応に有効な政策を、現在の状況や既存の政策にとらわれず、原点に立ち返って十分に検討するなど、県民の共感が得られる構想とする。

# 第一部 とちぎの将来展望

## 第一章 時代の潮流

- 1 少子高齢・人口減少の時代
- 2 社会経済（産業や労働など）のあり方の変化
- 3 地域のあり方の変化
- 4 環境の世紀、水・食料・エネルギー等の制約
- 5 グローバル化
- 6 高度情報ネットワーク化
- 7 意識や行動様式の変化

## 第二章 とちぎの可能性と課題

**概要：** 栃木県には、優れた自然や田園風景、広大な土地、産業の集積、誠実で勤勉と言われる県民性など、将来の可能性を秘めた資源が多数ある。一方では、国際競争の影響を受けやすい産業構造や、新たな時代の人づくりなど、将来に対する課題も挙げられる。

とちぎの可能性と課題を的確に把握し、可能性を最大限に活かしながら課題の解決を図って、よりよい郷土づくりを目指していくことが必要である。

- ▶ 歴史的経緯に見る可能性と課題 ▶ 首都圏に近接する恵まれた立地条件
- ▶ 豊かで広大な県土 ▶ 安全な県土、生活の安全 ▶ 優れた自然、豊かな環境
- ▶ 受け継がれてきた優れた文化 ▶ 豊かな食料基地 ▶ 新たな経済基盤の創造
- ▶ 住む人にも訪れる人にも魅力あるとちぎ ▶ 重要性を増す健康づくり
- ▶ 少子高齢化の進展と人口減少時代 ▶ 多様化する教育への要求
- ▶ 21世紀を拓く原動力

## 第三章 とちぎの将来像

**概要：** 我が国は、明治以来続いたキャッチアップによる成長の時代に別れを告げ、世界のリーダーの一員として、真に成熟した国へと生まれ変わろうとしている。

私達は、新たな日本を創造するフロントランナーの気概を持って、このすばらしい郷土“とちぎ”の魅力と可能性を活かし、希望と誇りの持てる自立した地域として自律的に発展させていく。

また、時代の変化に的確に対応し、本県の持つ可能性を最大限に活かしながら、郷土“とちぎ”を、人々が豊かで活気に満ちた生活を営み、自然や街並み、そして人々の心が

美しさとやさしさにあふれる郷土としていく。

このような郷土の将来像を

**「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”**として、

このすばらしい栃木県を次世代に確実に引き継いでいく。

また、今後の高齢社会は、地域の中で互いに助け合い、喜びを分かち合える社会でなければならない。さらに、私たちを育てている環境の容量の限界が明らかになってきた今、私たちの暮らしそのものを見つめ直し、環境と共生できるものとしていくことが求められている。

“とちぎ”づくりの基本的方向に向けて、自立と自助、さらに互助による幸福の追求である

「分度推譲」を郷土づくりの基本理念として掲げ、“とちぎ”の魅力と実力を最大限に活かし、この 21 世紀、郷土「とちぎ」をさらに希望と誇りの持てる県として持続的に発展させていく。

この基本理念に基づく郷土づくりを

**「分度推譲立県」**として推進していく。

## **“とちぎ”づくりの行動指針**

### **1 “自” (みずから) をみがく**

～いまから明日へ、自立・自助の礎を築くために～

個人や企業、地域などが今をしっかりと見つめ直し、それぞれの持つ個性や能力を最大限に発揮できるよう、計画的に自らを磨き、責任を持って行動していく。

また、様々な価値観や生活像の中から、各人が自由に生き方を選択し、人や自然とのふれあいなどの暮らしの中の喜びや生きがいにも目を向けて、心の豊かさや人間的な豊かさを磨いていく。

“とちぎ”を構成するすべての主体が、自らのもてる資質と能力を一層磨き、熟成していく中から、自立した豊かな“とちぎ”を創りだしていく。

### **2 “絆” (きずな) をつなぐ**

～わたしからみんなへ、互助・協調のネットを織りなすために～

社会を構成するすべての主体が、豊かな心と公共心を持って、他者のため、社会のため、将来の世代のために、自分にできることを自ら考え、行動していく。

この中で各主体が協力・補完しあいながら、人と人、人と社会、人と自然との間に相互の信頼や共生、共助のネットワークを積み重ね、弱者を助け、挑戦者に勇気を与えていく。

地域「みんな」の暖かなコミュニケーションを通して、互いの思いやりや助けあいの心が息づく 家族やコミュニティを取り戻し、身近な「安心」や「信頼」の絆をつなぎ

合わせていく中から、地域社会を支え、育むセーフティネットとしての社会システムを確立していく。

安心と信頼の絆による「ヒューマンセーフティネット」の輪を拡げ、みんなが共に生きることの喜びを分かち合える、おおらかな“とちぎ”を創りだしていく。

### 3 “風”(かぜ)をおこす

～ここから世界へ、さらなる夢と希望を実現するために～

自立した「個」と「ヒューマンセーフティネット」の基盤の上に、各主体が常に新たな革新と創造の風を巻き起こしていく。

そのために、多様な個性を互いに認め合い、挑戦しようとする人には誰にもチャンスがあり、たとえ失敗してもやり直しがきく敗者復活型の社会を築いていく。

また、恵み多い環境を将来の世代に引き継いでいくため、ライフスタイルを根本から見つめ直し、全国に、そして世界に先駆けた持続可能な発展を実現する社会づくりに挑戦していく。

“とちぎ”の風土に、“風”を起こし、人々や企業、行政がみずみずしい発想と姿勢を呼び覚ましていく中から、いっそうダイナミックな革新性、創造性があふれ、さらなる夢と希望の実現に挑戦し、飛躍できる“とちぎ”を創りだしていく。

## 第二部 県政の取組方向

### “とちぎ”づくりの戦略テーマ

地域づくりの原点に立ち返って、県民を主体とした“とちぎ”づくりに取り組むため、“とちぎ”の活力を構成する「いとなみ」を以下の4つの側面からとらえ、「“とちぎ”づくりの戦略テーマ」とする。

この4つの戦略テーマについて、「“とちぎ”づくりの行動指針」の視点から、私たちの取り組むべき方向を定め、具体的な政策を構築する。

#### 1 『生きる・まなぶ』

～のびやかな「とちぎ人」～

地域の活力の源泉は「人」そのものである。“とちぎ”に暮らし、集う人々みんなが、健康的で、人間性豊かで、一人ひとりの個性と能力が発揮でき、性別や世代などの違いを越えてお互いの存在を大切にする“のびやかな「とちぎ人」”の育成を目指す。

心おおらか、豊かな人づくり

(行動指針：“自”をみがく)

心豊かな人を育むシステムづくり

「学ぶ力」あふれるとちぎ人の育成(学力向上、生涯学習)

多様な学びができるシステムづくり(教育・学習コースの多様化)

守り育てるみんなの健康(医療対策、健康づくり、保健、スポーツ等) など

- 開かれたコミュニティづくり ( 行動指針：“絆”をつなぐ )  
 すべての人をやさしく見守る社会づくり ( DV・児童虐待対策、外国人との共生 )  
 社会の宝、子どもが増えるシステムづくり  
 みんなでつくる地域の学校 ( 地域社会と学校の連携、青少年育成 ) など  
 世界にはばたく人づくり ( 行動指針：“風”をおこす )  
 小さな地球人づくり ( 国際感覚教育 )  
 地域に風をおこす人材づくり ( 創造性・課題解決能力・コミュニケーション能力等を育む教育 ) など

## 2 『うみだす・活かす』 ~ 明日を拓く産業・行政 ~

地域社会は、豊かに生きるための財やサービスをうみだす「産業」と、地域社会の「しあわせ」( 広義の福祉 ) の条件を整え、備える公的な「行政」に支えられている。時代の転換の中で新たな“とちぎ”の進路を切り拓くため、革新性と柔軟性に富み、地域にしっかりと根ざして県民、地域とともに歩む産業と行政の構築を目指す。

- とちぎの原動力づくり ( 行動指針：“自”をみがく )  
 きらりと光る中小企業づくり  
 地域を支える産業人づくり ( 職業意識教育 )  
 先端の頭脳づくり ( 高等教育の充実 )  
 自然の恵みと人をつなぐ農林業 ( 競争力ある農林業 )  
 新時代の効率的な行政システムづくり ( 財政再建、行政改革、地方分権 ) など  
 協働のシステムづくり ( 行動指針：“絆”をつなぐ )  
 労働力減少や新たな雇用のあり方に対応したシステムづくり ( 雇用流動化、労働力減少への対応 )  
 地域に根ざした内発型・協働型ビジネスづくり ( コミュニティビジネス育成 )  
 住民自らがつくる自治体 ( 県民参加の行政、情報公開、官民の役割分担見直し ) など  
 創造の風土づくり ( 行動指針：“風”をおこす )  
 とちぎを支える新時代の産業づくり ( 新産業創造システム、先端産業誘致 )  
 “とちぎ”からのチャレンジ精神育成 ( 起業家精神育成 )  
 知のフロンティアとちぎを拓く ( 研究開発促進、科学技術振興 ) など

## 3 『楽しむ・ふれあう』 ~ 夢ときめく交流社会 ~

“とちぎ”に集う人々が、互いに交流し、助け合うことによって、日々新たな喜びや誇り、生きがいや励みといったみずみずしい「心の豊かさ」を感じながら暮らせる、個性と品格を備えた美しい“とちぎ”を創りだしていく。

そして、“とちぎ”から、独自の誇り高い「文化」が生まれ、「心の豊かさ」が躍動する“とちぎ”ならではの“夢ときめく交流社会”の創成を目指す。

- にぎわいの舞台づくり ( 行動指針：“自”をみがく )  
 にぎわいとくつろぎの交流点 ( 観光地づくり、中心市街地の活性化 )  
 驚きと感動のとちぎづくり ( とちぎの魅力の発信 ) など
- 助け合いのパートナーシップづくり ( 行動指針：“絆”をつなぐ )  
 男女、年齢を問わず能力発揮できるパートナーシップ社会づくり ( 男女共同参画、障害者、高齢者の社会参加 )  
 誰もが社会貢献できる協力社会づくり ( NPO・ボランティア等の活動支援、企業と社会との協力連携 ) など
- とちぎの風おこし ( 行動指針：“風”をおこす )  
 新しいとちぎ文化の華  
 守り活かす伝統文化  
 世界の国とのパートナーシップ ( 国際交流、世界への貢献 ) など

#### 4 『つちかう・伝える』 ~ 未来にひきつぐ郷土 ~

社会基盤や環境を、地域みんなの共有財産として改めて再確認し、よりよいものとして次世代へ確実に伝えていく。また、地域社会の基盤である安全な暮らしを確保して快適で魅力あふれる持続可能な“未来にひきつぐ郷土”の創出を目指す。

- 魅力きらめく空間づくり ( 行動指針：“自”をみがく )  
 とちぎの魅力をつくるまちづくり、農山村づくり  
 安心で安全な地域づくり ( 防災対策、治安対策 )  
 水・食料・エネルギーの安定供給  
 人口減少・環境新時代の社会資本・土地利用 など
- 出会いのネットワークづくり ( 行動指針：“絆”をつなぐ )  
 誰でも使いこなせる情報社会づくり ( 地域情報化 )  
 とちぎの自立と交流を支える交通基盤整備 など
- みんなを育む環境づくり ( 行動指針：“風”をおこす )  
 環境にやさしいライフスタイルづくり ( 地球環境保全、環境学習 )  
 環境首都のシステムづくり ( 廃棄物対策、環境関連産業の育成 )  
 とちぎの自然を伝えるシステムづくり ( 自然環境保全 ) など